

ワーク・ライフ・バランスに対する 男女間の認識の異同について —多母集団の平均構造分析を用いて

宮田弘一
(尾道市立大学)

ストーリーライン

①はじめに

②先行研究（調査）

③調査概要

④分析

⑤結論

①はじめにー 1

目的：

ワーク・ライフ・バランス（WLB）に対する男女間の認識の異同について、多母集団の平均構造分析を用いて明らかにする。

男女間の認識の異同に関する視点：

- * 従来の男女間の認識差による調査・研究では男性と女性の比較のみ
- ①男性の同性（男性）に対するWLBの認識
- ②男性の異性（女性）に対するWLBの認識
- ③女性の同性に対するWLBの認識
- ④女性の異性に対するWLBの認識

①はじめにー2

大学生のWLBの認識（男女間の異同に着目）を問う理由：

- ・ キャリアとは「職業キャリア」と「ライフキャリア」を統合した「生き方」（価値観の累積）。
 - 「生き方」設計にはWLBに対する認識が大きく影響。
 - 「生き方」においてWLBを求めるならば、ジェンダーや男女共同参画社会等に対する理解が不可欠。←次頁のように良好なWLB・男女共同参画社会に向けた環境整備。
 - ・ 院生時代、大学のキャリア教育研究に従事。
 - キャリア教育のシラバス分析でWLBや男女共同参画社会を取り込んだ授業・取組を確認。
 - ← 高等教育のキャリア教育にはWLBや男女共同参画社会の視点を組み込むよう提言（中教審，2011）。
- ⇒ 本データ（全国調査）を用いて、大学生のWLBの認識（男女間の異同に着目）を問う。

①はじめに一 3 (参考)

WLB・男女共同参画社会に対する取組（大学分含む）：

- ・ 1986年 男女雇用機会均等法
- ・ 1999年 男女共同参画社会基本法
 - ⇒大学内にも男女共同参画委員会の設置、センターの設立へ
- ・ 2008年 育児介護休業法改正
- ・ 2009年 次世代育成推進法改正
- ・ 2010年 第3次男女共同参画社会基本計画
 - 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育の推進
- ・ 2010年 大学設置基準改正によるキャリア教育義務化
- ・ 2011年 中教審答申「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」
 - ⇒ジェンダー論や男女共同参画を含むキャリア教育が正課内へ。

②：先行研究（調査） — 1

先行研究（調査）

①大学生におけるWLBや男女共同参画等の認識に関する男女間の差異を問う研究

* 一大学機関を対象にしたWLB・男女共同参画・固定的性別役割分業の認識を調査

宮城教育大学学生と私立一般大学とを比較した数見・土井・伊藤（2009）の研究

男女共同参画に関する講義受講者に限定した三重大学の調査（三重大学，2019）

滋賀県立大学学部生を対象にした武田（2020）の研究

* 一定のエリア内の大学機関を対象にしたWLB等の認識を問う調査

愛媛県内の大学生（n=788）を対象にした桐木他（2017）の研究

⇒調査対象が限定的（一大学機関、特定の地域）。

調査対象がWLBや男女共同参画を含むキャリア教育を受けた受講者に限定。

② 先行研究（調査） — 2

② 「就労等に関する若者の意識調査」（内閣府：平成29年実施）

* 16～29歳までの男女10,000人対象

* 全体でみた場合、「仕事よりも家庭・プライベートを重視」（63.7%、平成23年：52.9%）。

男女別でみた場合、「仕事よりも家庭・プライベートを重視」（男性：58.3%、女性：69.4%）。

男性はWLB重視が「23年度」調査に比較して10%程度上昇。

⇒ 仕事と比較して、どの程度、家庭（プライベート）を重視するかが、不明。

参考：高校生を対象にしたWLBの意識調査

* 全国から抽出した4県の高校生3年生（n=7563）を対象にした調査。

* 仕事と結婚の両方を重視している高校生は男性に多く（男性47.9%、女性38.1%）、仕事よりも

結婚を重視している高校生は女性に多い（男性19.2%、女性31.4%）。

⇒ 日本の女子高校生は、仕事よりも結婚を優先する特徴←女性の職業アスピレーションが抑制（深堀, 2017）

③調査概要

調査データ：マイナビ2022年大学生のライフスタイル調査

- ・ 調査期間：2020年11月26日～2020年12月23日
- ・ 調査方法：2020年11月30日時点のマイナビ2022会員の大学生・大学院生にWEB DMを配信
：2020年11月26日に過去のアンケート回答者にWEB DMを配信
- ・ 有効回答数：3938名 このうち大学生分のみ使用 3392名（男性：918名、女性2474名）

教示文：

下記のような働き方をする「同性の社会人」「異性の社会人」について、あなはどのように感じますか。

“1：すごくカッコいい、2：まあまあカッコいい、3：どちらとも言えない。4：あまりカッコよくない。5：カッコわるい”

- ・ 毎晩遅くまで残業し、トップの成績をあげている。
- ・ 指示された通り残業し、上司の信頼を得る。
- ・ 時間内に仕事を終え、一切残業しない。
- ・ 時間内に仕事を終え、積極的に子育てをする。
- ・ 子育てに専念するため育児休業を習得する。
- ・ 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る。

④分析— 1

基本統計量：逆転項目

	MIN	MAX	M	SD
no93_r 「同性の社会人」 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている。	1	5	3.31	1.07
no94_r 「同性の社会人」 指示された通り残業し、上司の信頼を得る。	1	5	3.10	1.05
no95_r 「同性の社会人」 時間内に仕事を終え、一切残業しない。	1	5	4.26	0.87
no96_r 「同性の社会人」 時間内に仕事を終え、積極的に子育てをする。	1	5	4.66	0.67
no97_r 「同性の社会人」 子育てに専念するため育児休業を取得する。	1	5	4.46	0.76
no98_r 「同性の社会人」 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る。	1	5	3.22	1.04
N	3392			

	MIN	MAX	M	SD
no99_r 「異性の社会人」 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている。	1	5	3.34	1.12
no100_r 「異性の社会人」 指示された通り残業し、上司の信頼を得る。	1	5	3.13	1.11
no101_r 「異性の社会人」 時間内に仕事を終え、一切残業しない。	1	5	4.15	0.95
no102_r 「異性の社会人」 時間内に仕事を終え、積極的に子育てをする。	1	5	4.64	0.70
no103_r 「異性の社会人」 子育てに専念するため育児休業を取得する。	1	5	4.50	0.79
no104_r 「異性の社会人」 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る。	1	5	3.30	1.10
N	3392			

因子分析 (EFA)

	I ライフ重視	II 「ジョブ重視」
no96_r 「同性の社会人」 時間内に仕事を終え、積極的に子育てをする。	.85	.01
no97_r 「同性の社会人」 子育てに専念するため育児休業を取得する。	.74	.00
no95_r 「同性の社会人」 時間内に仕事を終え、一切残業しない。	.54	.01
no93_r 「同性の社会人」 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている。	-.03	.73
no94_r 「同性の社会人」 指示された通り残業し、上司の信頼を得る。	-.03	.70
no98_r 「同性の社会人」 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る。	.10	.47
因子間相関	I	II
I	—	.13
II	.13	—

	I ライフ重視	II 「ジョブ重視」
no102_r 「異性の社会人」 時間内に仕事を終え、積極的に子育てをする。	.90	.01
no103_r 「異性の社会人」 子育てに専念するため育児休業を取得する。	.81	-.01
no101_r 「異性の社会人」 時間内に仕事を終え、一切残業しない。	.52	.03
no100_r 「異性の社会人」 指示された通り残業し、上司の信頼を得る。	-.04	.76
no99_r 「異性の社会人」 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている。	-.01	.76
no104_r 「異性の社会人」 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る。	.10	.45
因子間相関	I	II
I	—	.09
II	.09	—

④分析ー 2

分析手順：

①モデルの確定

②母集団ごとの分析

* 配置不変性の検討

各集団間でパス図は同じでも推定値は異なるモデル

③母数制約の検討

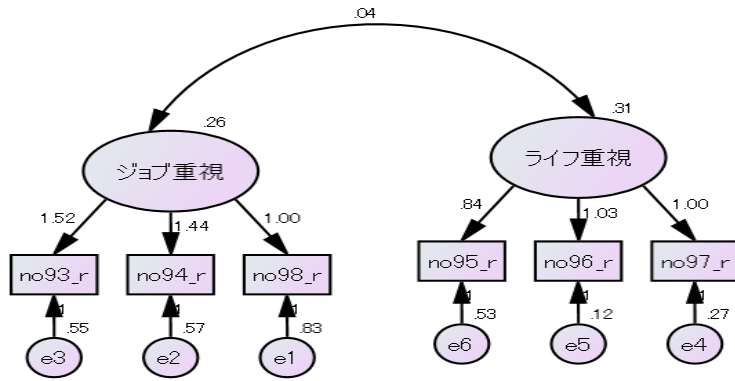
* 測定不変性の検討→多集団の平均構造分析を行う場合の前提条件

各集団間の推定値が同じ（等値制約）とするモデル

④平均構造の導入

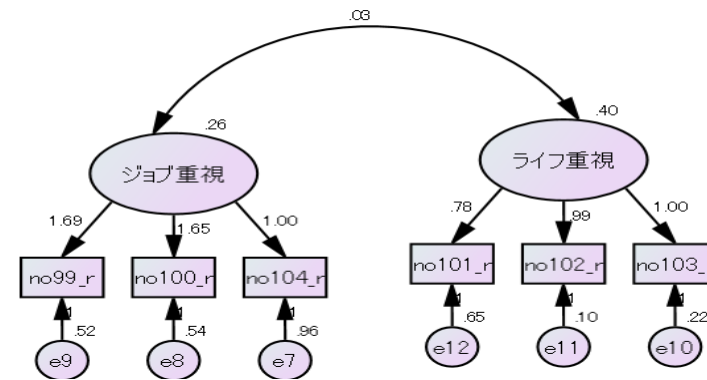
④分析ー3

CFAによるモデルの確定 (値は非標準化解)



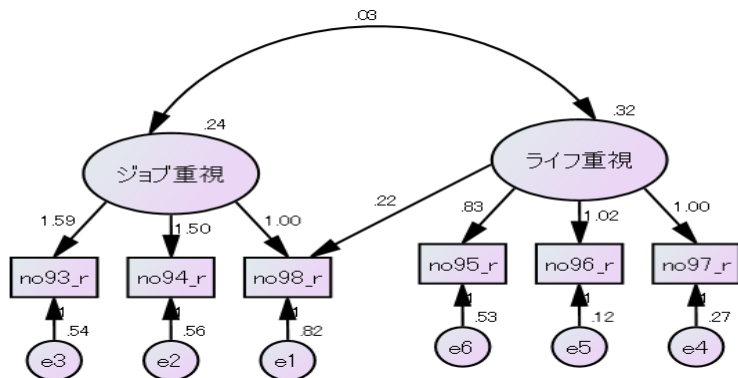
$\chi^2=50.412$ 、確率=.000、GFI=.995、RMSEA=.040、AIC=76.412

図1 モデル① 同性に対するWLBの認識 (男女)



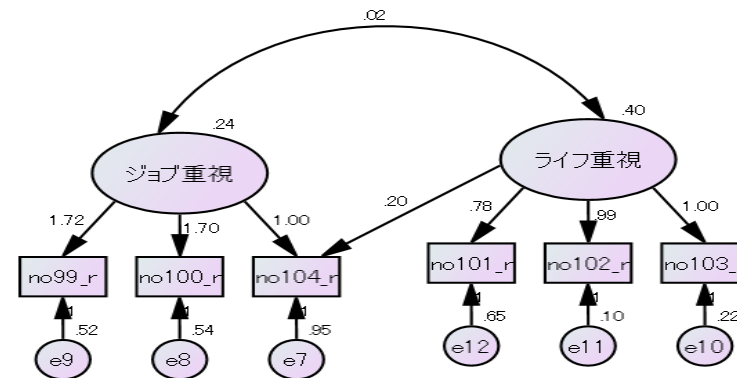
$\chi^2=63.094$ 、確率=.000、GFI=.994、RMSEA=.045、AIC=89.014

図2 モデル② 異性に対するWLBの認識 (男女)



$\chi^2=7.929$ 、確率=.339、GFI=.999、RMSEA=.006、AIC=35.929

図3 モデル③修正・同性に対するWLBの認識 (男女)

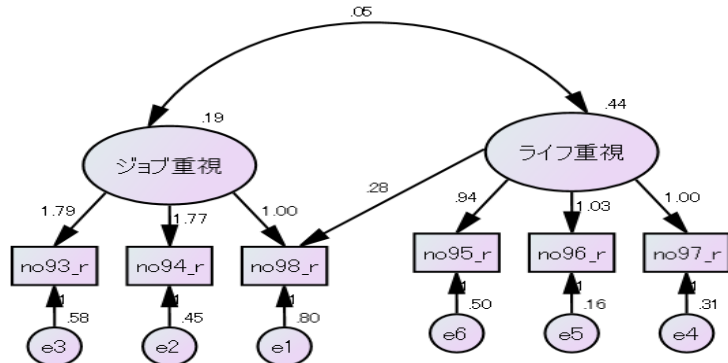


$\chi^2=17.596$ 、確率=.014、GFI=.998、RMSEA=.021、AIC=45.596

図4 モデル④修正・異性に対するWLBの認識 (男女)

④分析ー4

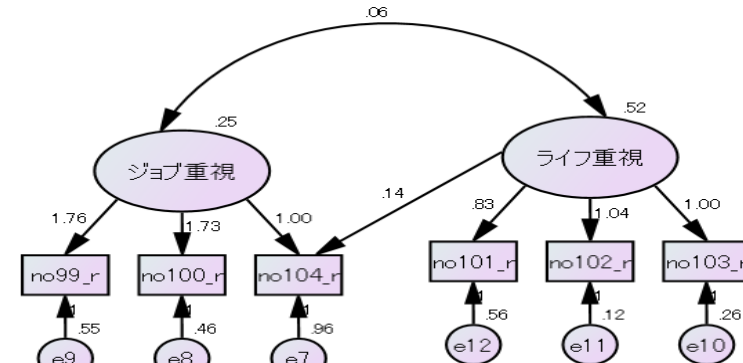
母集団ごとの分析（配置不変性の検討）



$\chi^2=8.794$ 、確率=.268、GFI=.997、RMSEA=.017、AIC=36.794

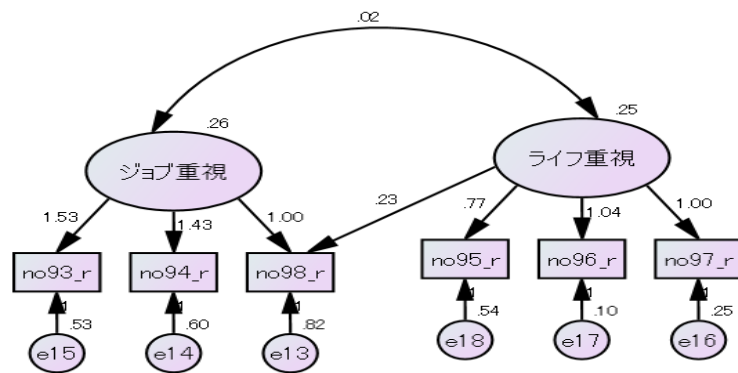
図5 モデル⑤ 男性の同性に対するWLBの認識

(値は非標準化解)



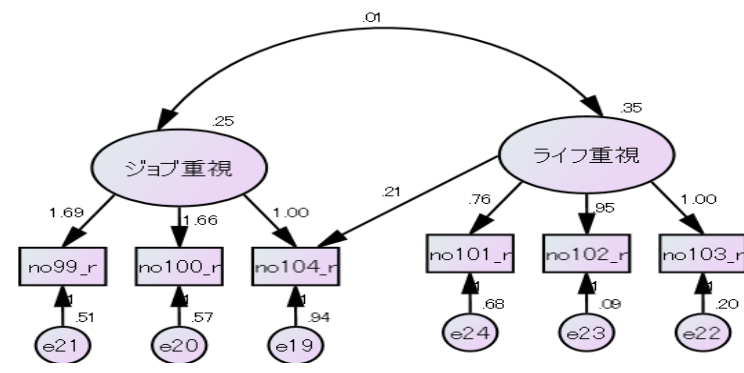
$\chi^2=15.536$ 、確率=.030、GFI=.994、RMSEA=.036、AIC=43.536

図6 モデル⑥ 男性の異性に対するWLBの認識



$\chi^2=6.993$ 、確率=.430、GFI=.999、RMSEA=.000、AIC=34.993

図7 モデル⑦ 女性の同性に対するWLBの認識



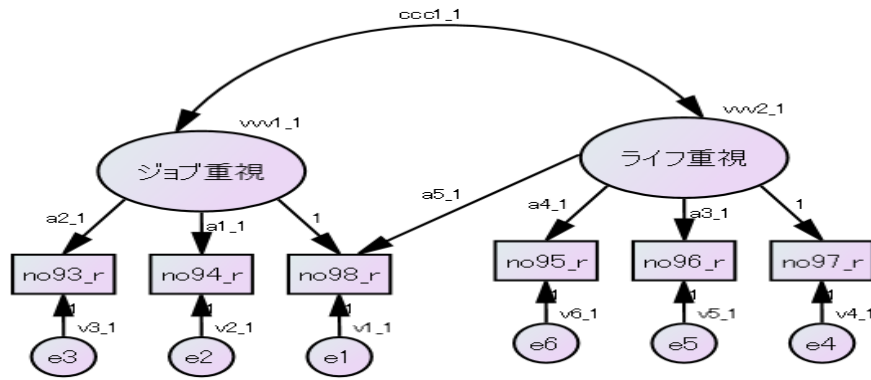
$\chi^2=11.113$ 、確率=.134、GFI=.999、RMSEA=.015、AIC=39.113

図8 モデル⑧ 女性の異性に対するWLBの認識

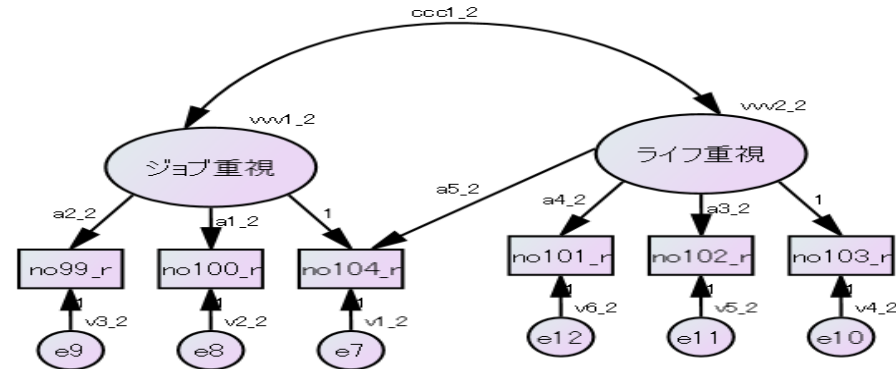
⇒モデルの適合指標、 $\chi^2=42.446$ 、確率=.039、GFI=.998、RMSEA=.009で、配置不変性が成立する可能性が高い。

④分析ー5

母数制約の検討（測定不変性の検討）



【再掲】モデル⑤（男性）、⑦（女性）



【再掲】モデル⑥（男性）、⑧（女性）

表5 測定不変モデルの検討

モデル	χ^2 値	df	p値	GFI	RMSEA	AIC
配置不変モデル	42.446	28	.039	.998	.009	154.446
測定不変モデル	65.997	43	.014	.997	.009	147.997
全母数等値モデル	453.461	70	.000	.976	.028	481.461

⇒測定不変モデルが妥当と判断

④分析ー6

多母集団の平均構造分析

- ・測定不変モデルが妥当と判断したため、多母集団の平均構造分析へ。
- ・仮定1：男性の同性に対する「ジョブ重視」因子の平均を0、分散を1に設定（基準）。
仮定2：各モデルの観測変数の切片を等しくする。
- ・モデルを以下のように設定

⇒モデル9：各モデルの因子を次のように設定。「平均0」「分散1」

モデル10：各モデルの因子を次のように設定。「平均0」「分散推定」

モデル11：各モデルの因子を次のように設定。「平均推定」「分散1」

モデル12：各モデルの因子を次のように設定。「平均推定」「分散推定」

表6 4つのモデルの適合度

モデル	χ^2 値	df	p値	CFI	RMSEA	AIC
モデル9	2806.043	69	.000	.712	.076	2884.043
モデル10	636.962	62	.000	.940	.037	728.962
モデル11	2720.959	63	.000	.721	.079	2812.959
モデル12	528.056	56	.000	.950	.035	634.056

⇒モデル12が妥当と判断

④分析一 7

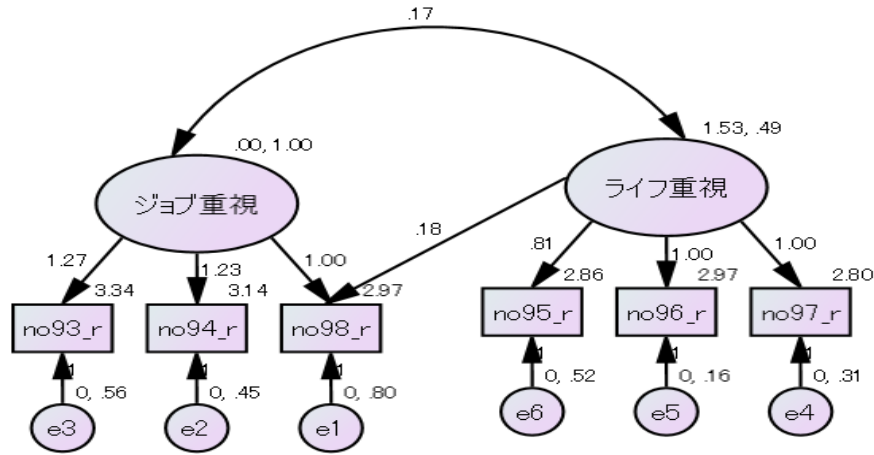


図9 男性の同性に対するWLB認識

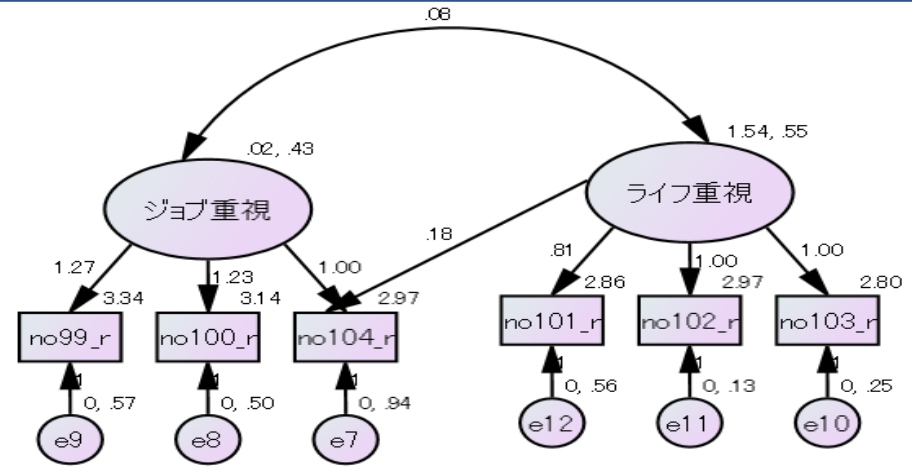


図10 男性の異性に対するWLB認識

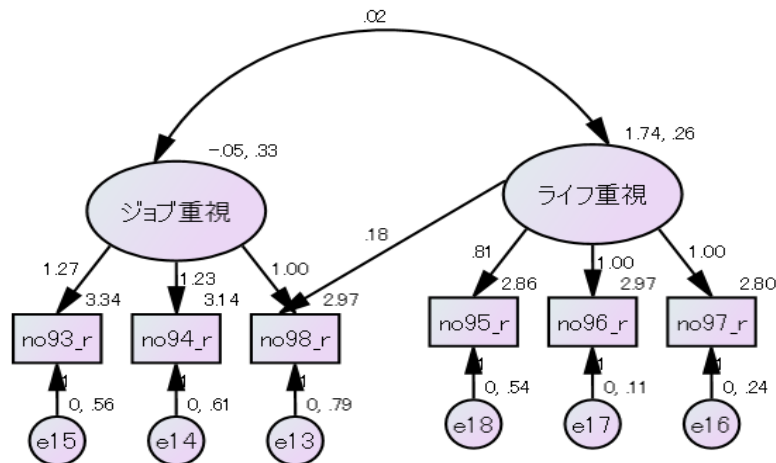


図11 女性の同性に対するWLB認識

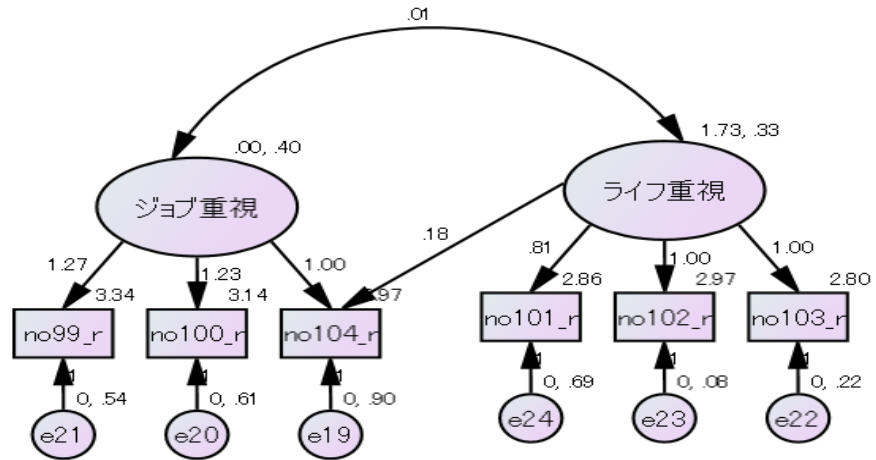


図12 女性の異性に対するWLB認識

④分析ー 8

効果量

$$d = \frac{Fm2 - Fm1}{S^*}$$

$Fm2$ =それぞれの因子平均、 $Fm1$ =基準である男性の同性に対する「ジョブ重視」因子平均0 S^* =標準偏差

$$S^* = \sqrt{\frac{n1Fv1 + n2Fv2}{n1 + n2 - 2}}$$

$n1$ =男性数 $n2$ =女性数 $Fm2$ =それぞれの因子の分散、 $Fv1$ =基準である男性の同性に対する「ジョブ重視」因子の分散1

小括

表7 因子平均・因子分散・効果量

性別	項目	因子平均	因子分散	効果量(d)
男性	同性に対するWLBの認識(「ジョブ重視」)	0.00	1.00	基準
	同性に対するWLBの認識(「ライフ重視」)	1.53	0.49	1.93
	異性に対するWLBの認識(「ジョブ重視」)	0.02	0.43	0.03
	異性に対するWLBの認識(「ライフ重視」)	1.54	0.55	1.88
女性	同性に対するWLBの認識(「ジョブ重視」)	-0.05	0.33	-0.07
	同性に対するWLBの認識(「ライフ重視」)	1.74	0.26	2.56
	異性に対するWLBの認識(「ジョブ重視」)	0.00	0.40	0.00
	異性に対するWLBの認識(「ライフ重視」)	1.73	0.33	2.42

⑤結論

結果の要約

- ①男女ともに同性および異性に対する「ジョブ重視」の因子平均値・効果量は、ほぼ同じ。⇒「ジョブ重視」に関する認識の異同はなし。
- ②男女ともに同性および異性に対する「ライフ重視」の因子平均値・効果量は、「ジョブ重視」（基準）に比較して非常に高い。⇒この認識は極めて強固。
- ③「ライフ重視」の因子平均値・効果量を見た場合、男性よりも女性の方が高い。
⇒男女間によるWLB認識の異同は「ライフ重視」の認識の差異に依存。
- ④男女ともに、同性および異性に対するWLBに対する認識の違いは確認できず。

課題

- ・WLBの認識を記述的に示したに過ぎない。説明的な問い(「なぜ、そのように生じているのか」)に対する応答が必要。

文献・謝辞— 1

数見隆生・土井豊・伊藤常久（2009）「宮城教育大学学生のジェンダー意識の現状と課題：一般大学学生との比較調査」『宮城教育大学紀要』44, p. 109-123.

桐木陽子・郡司島宏美・西村浩子・友川礼・土屋由香・甲斐朋香（2017）「男女共同参画の視点からのキャリア教育の

必要性：愛媛県内大学生を対象とした意識調査をもとに」『松山東雲短期大学研究論集』47, 30-43.

武田俊輔（2020）「滋賀県立大学学部生のワーク・ライフ・バランスと男女共同参画に関する意識」『人間文化：滋賀

県立大学人間文化学部研究報告』48, p. 2-25.

中央教育審議会（2011）『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』（答申）

<https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf>

(2021. 5. 17)

豊田秀樹編著（2007）『共分散構造分析 [Amos編]』東京図書.

内閣府（2010）『第3次男女共同参画社会基本計画』

<https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/3rd/pdf/3-26.pdf> (2021. 5. 17)

内閣府（2018）「就労等に関する若者の意識調査」『平成30年版 子供・若者白書（全体版）』

<https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30honpen/s0_0.html> (2021. 5. 17)

文献・謝辞ー 2

深堀聡子 (2017) 「何を重視し、どう行動するのか：日米の若者の価値観・進路・家族」 『ライフデザインと希望』

(格差の連鎖と若者3) 石田浩〔監修〕佐藤香石田浩〔編〕勁草書房, p. 57-82.

三重大学男女共同参画推進専門委員会 (2019) 『三重大学男女共同参画推進専門委員会報告書2018』

<<https://www.mie-u.ac.jp/danjo/news/fadc6cfcbec438e40cca2de8a704e1d0.pdf>> (2021. 5. 17)

本研究は以下のJSPS科研費の助成を受けて開催しております。

○JP19H00621 (研究代表者：小林信一, 「知のオープン化時代の大学・科学関連システムの再構築」)

○JP20H01643 (研究代表者：村澤昌崇, 「EBPMの批判的検討を通じた高等教育政策・研究の高度化とEIPMへの展開可能性」)

○JP18K18651 (研究代表者：村澤昌崇, 「多様な使命と目的を同時最適化する卓越した大学モデルの探索」)

○JP20J14673 (日本学術振興会特別研究員：中尾走, 「高等教育政策を事例にしたEBPMの批判的検討」)

ご清聴ありがとうございました。
ご質問等がございましたら、以下までお願いいたします。

hiarmiyata@gmail.com